

★神戸ファッション市民大学OBによるグループ

〈神戸のコミュニケーション都市化をめざす〉

K. F. S. news 69

事務局／神戸市中央区東町113—1

月刊袖豆 - 子供 T.F.I. (038) 331-336

“Swing”創刊

ごあいさつ

柿本雅司〔KFS
会長〕

い活性化をはかるための活動をつづけていこうとするものです。

私たちは神戸ファッション都市百年の計の尖兵としての役割を果たすのがKFSであると自負し、結成以来、地道ではありますが、春秋二回の一般公開講座、毎月例会のマンスリーサロン等、着実な歩みを続けてまいりました。また周知のとおり、福祉のファッションをテーマに掲げ、実践主義を基本にして体の不自由な人たちのためのファッション展示会などを行ない、絶大な評価をいただきました。そして、この度、KFS9年目を契機に、私たちのこの活動をより理解していただくためにも春秋2回、KFSの会誌でもあります神戸のファッションジャーナリズムの確立とより活力ある神戸ファッションの高揚のためにファッション誌「Swing」を発行することになりました。

Swing は神戸のファッショナルチャーを一步前進させるため、KFS 会員のいきいきとした情報交流の媒体であり、ファッションの各界で活動する KFS メンバーと市民との交流のかけ橋にもしたいと考えております。

ファッショントレンド誌 Swing は、地域的質感や実感を大切にしながらも国際感覚を基調にし、未来に飛翔するファッション都市神戸のエネルギー源になるものと確信しております。



K.F.S
シンボルマーク
誕生

ファッショソ誌“Swing”の創刊に先だって会員の中でシンボルマークのデザインを募集。応募作品の中3点から理事会で、“K.F.S.”をタツノオトシゴになぞったマークが誕生した。制作者は大内信行・田中謙司副会長のあっせんによるもの。

また“Swing”的な名前は、K.F.S.の名付け親、柿本現会長がグッドセンスで命名した。

● Swing のお問合せ・お申込みは
事務局迄 定価 ¥200. 送料¥200

● 3月のマンスリー“売る”シリーズ



3月12日（金）午後7時より
会員無料／一般 1,000円
センター・プラザ西館6F 17号室
「明日から出来る専門店の販促活
動」 Part II 中田 幸子
<ワールドK.K.社長室マーケッテ
ィングプランナー>

昨年の中田幸子さんの講演が好評につきその第2弾で実践編をお願いしようというものです。ぜひご参加下さい。

・4月の一般公開講座

4月23日(金)午後6時半／神戸市立労働会館(中央区役所西隣)
1人￥2,000円
講師／立亀長三(アトリエナクト)
“82秋冬 ファッションの傾向”
の回立亀先生の熱演に好評を重ねる
チケットをご購入ください。

SPECIAL MESSAGE

神戸百店会だより



★北野坂ハウスに楽しい子供の遊び場誕生

春の陽さしを浴びながら緑の芝生で追っかけっこや郵便屋さんごっこをして遊びましょう——昨年オーブンしたファミリア北野坂ハウスの広々とした庭を利

用して楽しい企画が生まれそう。3月の春休みには完成し、日曜、祭日のみ実施される予定。



ファミリア北野坂ハウス

小さな小屋が二つ、一軒は子供郵便局に、もう一軒はブレイルーム。芝生には木馬を置いたり、のびのびと



1番街に誕生する二つ茶屋の新社屋
神戸の老舗らしいインテリアで登場

★二つ茶屋、新築オーブン
和菓子の老舗、二つ茶屋が3月下旬、元町一番街に新築オーブンする。新社屋

「大人のティールームやシヨップピングだけでなく、子供さん達が喜ぶことを考えていました。郵便ごっこが覚えられれば幼児教育にもなると思って……」とまだまだ楽しい企画が生まれそう。

案者の坂野惇子代表専務は「大人のティールームやシヨップピングだけでなく、子供さん達が喜ぶことを考え

てきました。郵便ごっこが覚えられれば幼児教育にもなると思って……」とまだまだ楽しい企画が生まれそう。

春休みには完成し、日曜、祭日のみ実施される予定。

★二つ茶屋、新築オーブン
和菓子の老舗、二つ茶屋が3月下旬、元町一番街に新築オーブンする。新社屋

「大人のティールームやシヨップピングだけでなく、子供さん達が喜ぶことを考えていました。郵便ごっこが覚えられれば幼児教育にもなると思って……」とまだまだ楽しい企画が生まれそう。

案者の坂野惇子代表専務は「大人のティールームやシヨップピングだけでなく、子供さん達が喜ぶことを考え

てきました。郵便ごっこが覚えられれば幼児教育にもなると思って……」とまだまだ楽しい企画が生まれそう。

春休みには完成し、日曜、祭日のみ実施される予定。

は地下2階地上7階の瀧酒なビルで、1Fは和菓子・喫茶、2Fは座敷席もある大衆的なお食事処。また店先に屋台を出して、おはぎやおこわなどの実演販売もするそう。奥田社長は「当

店では『アルカリ性イオン水』を全商品に使用。よりおいしく健康的な食物を楽しんでいただきたい」と意欲を燃やしている。

★ルイシャンタン フレッシュモニターダ募集
「ルイシャンタン」をさらに着やすく美しくするため、ファッショセンス豊かな声を聞かせてもらうモニターを募集している。応募の方の中から抽選で全国300名様をモニターに。試着したモニター商品はプレゼント

●ショットピック

★ミキモトでは3月30、31日に京都ロイヤルホテルで、4月1、2日に大阪ロイヤルホテルで、3、4、5日は大阪梅田店(新阪急ビル1F)で「彩りの詩人たち」を

テーマに春の展示会を開きます。ぜひご覧下さい。

★田崎新珠では恒例の田崎新作コレクション「風」—自分、みつけた—to 3月9日~12日(AM10時PM7)神戸オリエンタルホテル2階大宴会場にて、3月16日よりホテル2階の間にて開催いたします。ぜひお立ち寄り下さい。

★中川衣裳店では、花嫁衣裳新作展示会を3月21、22日と舞子ビラで、22日神戸オリエンタルホテルで開催いたします。ぜひお立ち寄り下さい。

★神戸オリエンタルホテルの地下1階のグルメティが3月5日に1周年を迎えます。オリエンタルステーキハウス、イタリアンレストランハコモ、中华料理ハ海風飯店、ふく、鮨元、伊勢海老料理ハ白扇、セラバーハラ、ランドリープルチヤンスがお楽しみいただけます。期間は2月上旬~3月5日まで。

2月25、26、27日はセラバーハラ・ランドリープルチヤンスが開かれます。ボトルキーピ一本(バランタイン or スーパーニッカ or エンペラー)と海風飯店からの中国風オードブルがついて8,000円(税込)。お説きの上、お越しください。

★サノへの恒例の秋冬物キャビタルフェアが一ベルサノへで3月11日から4月間開催されます。ボトルキーピ一本(バランタイン or スーパーニッカ or エンペラー)と海風飯店からの中国風オードブルがついて8,000円(税込)。お説きの上、お越しください。

★モニターダ募集の番号(Ⓐ)①のいすれか1点(②服のサイズ)③他各賞が4、810選で、パリ旅行が4名に当たる。

応募方法官製はがきに④試着してみたいモニターダ募集の番号(Ⓐ)⑤のいすれか1点(⑥服のサイズ)⑦他各賞が4、810選で、パリ旅行が4名に当たる。

応募方法官製はがきに④試着してみたいモニターダ募集の番号(Ⓐ)⑤のいすれか1点(⑥服のサイズ)⑦他各賞が4、810選で、パリ旅行が4名に当たる。

応募方法官製はがきに④試着してみたいモニターダ募集の番号(Ⓐ)⑤のいすれか1点(⑥服のサイズ)⑦他各賞が4、810選で、パリ旅行が4名に当たる。

応募方法官製はがきに④試着してみたいモニターダ募集の番号(Ⓐ)⑤のいすれか1点(⑥服のサイズ)⑦他各賞が4、810選で、パリ旅行が4名に当たる。

住所・氏名・年令・職業・電話番

13、14日に催される。

展示会は

New Face



A M 10 / P M 7 • 30 水曜休
10 / P M 7 • 30 水曜休

新製品コーナー



沙羅双樹

●神戸鳳月堂より和菓子の新製品

洋風化社会の中で「古き良き」ものを見直す風潮が見られるが、このたび鳳月堂では「日本の菓子は五感の芸術である」といわれる和菓子の新製品を発売しました。代表商品は「沙羅双樹」(栗ようかん・しっとりと甘さをおさえた大納言小豆の羊かんに大粒の栗を入れたもの)「菊のうたげ」(栗きんとん・厳選された丹波栗の風味を生かしたまろやかな味、白い求肥がはいっている)「花紋」(薯蕷羹・山芋をすりこんだ薯蕷羹に大納言小豆をあしらったもの)。好みにより3種の和菓子を自在に詰め合わせてくれる。6個入(¥1,000)~24個入(¥5,000)



坂本吉章さん

号(3)近くのキャンペーン参加店の店番号・店名(3018リザ・サロン神戸センター・ラザ店)以上明記してお送り下さい。
宛先〒100東京中央郵便局留置一
ルイシャンタン・フレッシュモニ
タ大募集係
締切/昭和57年3月20日(当日消印有効)
発表/昭和57年4月中旬の新聞紙上で発表のうえ、ご当選の方には直接ご通知いたします。

★神戸ダイヤモンドギャラ

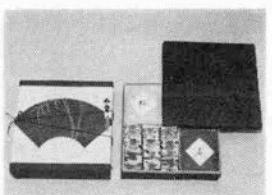
リーで坂本吉章展開く
12月22日~1月10日まで
北野坂の神戸ダイヤモンド
ギヤラリーで坂本吉章展が

兵庫高校卒業後、独学で絵を描き始め、1972年からパリに住み、室内装飾の仕事をしながら絵の勉強に励んできた。パリでは何度

開かれた。

神戸生まれの坂本さんは兵庫高校卒業後、独学で絵を描き始め、1972年からパリに住み、室内装飾の仕事をしながら絵の勉強に励んできた。パリでは何度

出品作品は約30点で、パリ及びパリ郊外の建物をモチーフにした油彩ばかり。
「この二、三年は建物を統けていってそのうち静物や人物に取り組みたい」とのこと。久々の帰国にギヤラリーを訪れる人が後を絶たない様子だった。



かグループ展に出品しているが、10年ひと区切りということで今回、日本で初めて個展を開く決心をしたそうだ。

出品作品は約30点で、パリ及びパリ郊外の建物をモチーフにした油彩ばかり。

「この二、三年は建物を統けていってそのうち静物や人物に取り組みたい」とのこと。久々の帰国にギヤラ

★オープフレッシュベーカリーで焼きたての味を須磨バティオ専門店1番館のカスカード・デリ名谷
ン。ヨーロッパスタイルのOven Fresh Bakery 1号店が昨年10月に改装オープン
店としてパンを焼く釜と発酵させるホイロが売場に設置された。これで工場との連携。ブレイをがつちり結んでパンの焼きたて度がグーンとアップ。目前でパンの焼きあがる様子を見るのも楽しいもの。パンを並べるスペースも増えて、150種類が顔を揃えている。イートイン・コーナーではフレッシュな味がその場味わえる。

クロワッサン¥50

ハムロール¥100、ヨット¥100

7 9 2 / 5 6 3 3 / 営業時間

AM 10 / PM 7 • 30 水曜休

AM 10 / PM 7 • 30 水曜休

ポケット ジャーナル

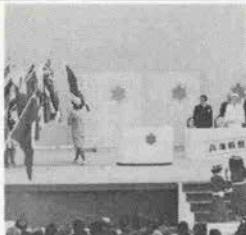
★ポートピア'81

その後のトピック2題

△公式記録映画、完成▽

ポートピア'81の開催を記念して、公式記録映画「神戸博ポートピア'81」が完成

した。16ミリのカラー映画で上映時間は60分。内容は、開幕までの準備期間の主要な行事、催し、会場の建設風景などが20分間、そして全国各地、世界各国の人々が集つた“思い出の180日”が約40分にまとめられている。フィルムは無料で貸出されており、貸出し期間は3日。自治会や会社の研修会などで利用されており、楽しかった想い出をよ



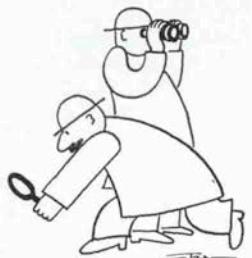
ポートピア'81開会式

みがえらす人、行けなかつた会場の雰囲気を味わう人など、それぞれに好評だ。

●問合せ／神戸ポートアイランド博覧会協会広報部広報課 電話番号 8-1111 または市役所市民局庁報課



「サンピア」



国鉄東海道線の高架と国道2号線、新生田川にはさまれた一帯を総称)の再開発が進められているが、昨年10月にオープンした「サンピア」(雲井通1丁目、旭通1丁目)に3月末「サンピア」がオープンする。

誕生日
ありがとう
運動



古切手の収集整理にご協力を
あなたの会社や家庭で古切手
(使用済の日本、外国、どんな切
手でも可)が捨てられていません
か。
古切手の周囲五ミリほど残して
切りとて、はがさずにそのまま
運動事務所までお持ちくださるか
郵送してくださいませんか、運動
参加カードをお送りします。

集まつた古切手はボランティア
の手で整理分類のうえ製品化され
バザーなどの催し物や福祉の店、
その他の会合で販売、代金は全額
ちえおくれの問題の社会啓発資金
として、福祉の向上のために活用
されます。

あなたも、あなたのまわりにあ
る古切手にハサミをいれていう
行為を通じて、なげなく捨てる
ていた古切手に、新しいのち
を与えてください。そしてみなさ
まの心を集め、福祉のこの運動に
ご参加いただきますよう、お願ひ
いたします。

なお、集まつた古切手の整理の
奉仕作業は、毎月週回、第一火
曜日、第二水曜、第三木曜、第四金
曜、第五土曜、第六日曜、第七日曜
曜に三宮の神戸市立青少年会館で
行っており、現在百名近くの主婦
のボランティアの奉仕をいただいて
います。この外、家庭において
掃除いたときお宅で整理してくだ
さっている方も多いです。

あなたも、いつでもどこでも
だれでもできるこの楽しい作業に
ご参加ください。

誕生日ありがとうございます

〒651 神戸市中央区御幸通八丁
目一六 神戸国際会館内

二五一一八一六一内線316

★三ノ宮駅東地区再開発
第2弾「サンピア」誕生
三宮の新しい顔として、
また今後の神戸の中心地と
してあらたな注目と期待が
寄せられている三ノ宮駅東
地区(国鉄三ノ宮駅の東側、
大の寄与をしたデザイナー
やグループ、団体を表彰す
るものだが、国際的かつ文
化的な賞として、その権威

毎日デザイン賞を受賞
「81毎日デザイン賞」を、
株浜野商品研究所長の浜野
安宏さんが受賞した。

同賞は昭和30年に創設さ

れ、一年間にすぐれた作品

を制作、発表し、業界に多

く影響を与えたデザイナーや

企業に贈られる賞である。

浜野さんは、この賞を受賞した

とき、「自分たちの仕事は、

世界中のデザイナーと競争する

中で、日本の文化や技術を

世界に広めたい」と語った。

浜野さんは、この賞を受賞した

とき、「自分たちの仕事は、

★平松治子第2句集

「海図」出版記念会開く

現代俳句「青玄」(伊丹

三樹彦主宰)の同人で女流

俳人の平松治子さんが「バ

ー〇〇人が集い、心からの
拍手を贈った。

★ダイエーがジーンズ発売

を記念してディスコ大会

K O B E 21 C ディスココル

ームにおいて、2月1日、

ダイエー主催のディスコ大

会が開かれた。これは同社

がニューヨークの「10」ジ

ーンズを新発売する記念と

して催したもの。当日は一

般募集された18歳以上の若

者たち150名が集まり、「10」ジ

ーンズのイメージキャラ

クターであるニューヨーク

うことになる。

それから平安京の時代

が続く、これは京都であ

る。後醍醐天皇が神器を

奉じて、大和の吉野に入

り南朝を開いたことであ

る。これも奈良になる。

ところが、兵庫に遷都さ

れたこともある。

という話になった。

まずは平城京、奈良に

都があつた。難波にも都

が遷つたことがある。い

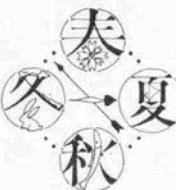
まの大坂である。天智天

皇が大和の飛鳥から大津

京に遷都したこともある。

これは現在の滋賀県とい

花時計



福原遷都のこと

最近、ある会合で雑談

をしているとき、「都」

という話になつた。

福原遷都のこと

がよく見える

治子

俳句現代派の進む先端を

渡ろうとする心意気がうか

かりめがね 母のは母が

よく見える

「かりめがね 母のは母が
よく見える」 治子

俳句現代派の進む先端を
渡ろうとする心意気がうか

がえる「海図」の出版に、
高橋徹、東内三男、小池義
人、重森守などに、伊丹三
樹彦、公子ら、同人たち約

一〇〇人が集い、心からの
拍手を贈った。

★ダイエーがジーンズ発売
を記念してディスコ大会

がえる「海図」の出版に、
高橋徹、東内三男、小池義
人、重森守などに、伊丹三
樹彦、公子ら、同人たち約

がえる「海図」の出版に、
高橋徹、東内三男、小池義
人、重森守などに、伊丹三
樹彦、公子ら、同人たち約



平松さんを囲んで



リック・セローン

番号10) リック・セローン
選手がゲストとして登場。
リック選手の活躍場面がビ
デオで紹介され、若者たち

も大いにフィーバー。ダイ
エーの中内功社長、セロー
ン選手、「10」ジーンズの
ケニンスバーグ社長たちの

デモ

展示

が

ます。

★實川延若丈の後援会「井筒会」

が今年は2月12日に生田神社会

館で開かれます。十三夜会から

「顔見世」の沼津の平作に賞と、

年間大賞が贈られ、上方歌舞伎の

伝承に心を配る延若丈は大活躍で

ます。

エー

の

中

内

功

社

長

セロー

ン

選

手

ゲ

ス

ト

レ

イ

ク

タ

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

★實川延若丈の後援会「井筒会」
が今年は2月12日に生田神社会
館で開かれます。十三夜会から
「顔見世」の沼津の平作に賞と、
年間大賞が贈られ、上方歌舞伎の
伝承に心を配る延若丈は大活躍で
ます。

★女流書家望月美佐さんの後援会

が今年は2月12日に生田神社会

館で開かれます。十三夜会から

「顔見世」の沼津の平作に賞と、

年間大賞が贈られ、上方歌舞伎の

伝承に心を配る延若丈は大活躍で

ます。

エー

の

中

内

功

社

長

セロー

ン

選

手

ゲ

ス

ト

イ

ク

タ

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

ー

★現代美術の奥山善巳さんが、3

月22日と27日まで、東京の村松画廊でタブローの個展を開かれます。

銀座7-10-8 平方ビル2F

57190995

★彫刻家の新谷穂紀さんが、多

年の功績により、耕穂褒章を受賞

され、その祝賀会が2月14日生田

神社会館で開かれました。

62号 神戸市兵庫区南瀬瀬1番13号

570-780 6 5 1-1 5 1 4

★河野商店の河野龍子さんが、多

年の功績により、耕穂褒章を受賞

され、その祝賀会が2月14日生田

神社会館で開かれました。

★若手彫刻家・の登竜門ローザ

貞松正一部さん(18)が受賞。ロ

ザンヌ賞は、75000スイスフラン

の他、1年間希望する欧米のバ

レエ学校に留学生として派遣され

る。この親は貞松正一部さん

★元朝日新聞記者、また大阪朝日

会館の館長として活躍し、最近は

ユニークな抽象画の作家として神

戸の人々に愛された十河豊さん

が、1月12日他界されました。

心より冥福をお祈り致します。

★神戸の明界地で女流三弦方なし

活躍された岡安喜昭さんが亡くな

りました。1月28日花隈福寺で葬儀が

とり行われました。

13th CHISATO'S ANNIVERSARY



KOBEの海がブルーに光り
白い街が風に唄う3月
千里の13年目の春が訪れました。
人と店とお酒との出会いを。
自由に楽しい雰囲気で……。

阪本千里

千 里

STAND
CHISATO

神戸市中央区下山手通2丁目11ノ1 KSMビル1F
TEL.(078) 331-4730
5:00PM~0:00AM 日曜・祭日休

格調ある 社交ダンス

社交ダンスは楽しみながら運動になり、一度覚えてしまうとダンスパーティでは“踊れる”という安心感で気持ちにゆとりを持って参加頂けます。さあ、あなたも様々なパーティに世界共通の社交ダンスでお楽しみ下さい。



- 全日本プロダンス競技大会において常時、決勝戦進出
- 西部日本7年連続チャンピオン 長谷川ダンススタジオ 長谷川 祐司

- 男女、年配者歓迎（特に男性、初心者の方をお気軽におこし下さい。）
- 初心者にはブルース・ジルバ・マンボ等、やさしい踊りから始めます。
- 経営・指導 長谷川 祐司
- 教 師 島田吉郎・千古芳栄・竹久絢子
- 営業時間 午後1時～午後10時（日曜休）
- レッスン料（会員制） 30分 2,000円
〔入会金 2,000円〕 見学無料

長谷川ダンススタジオ

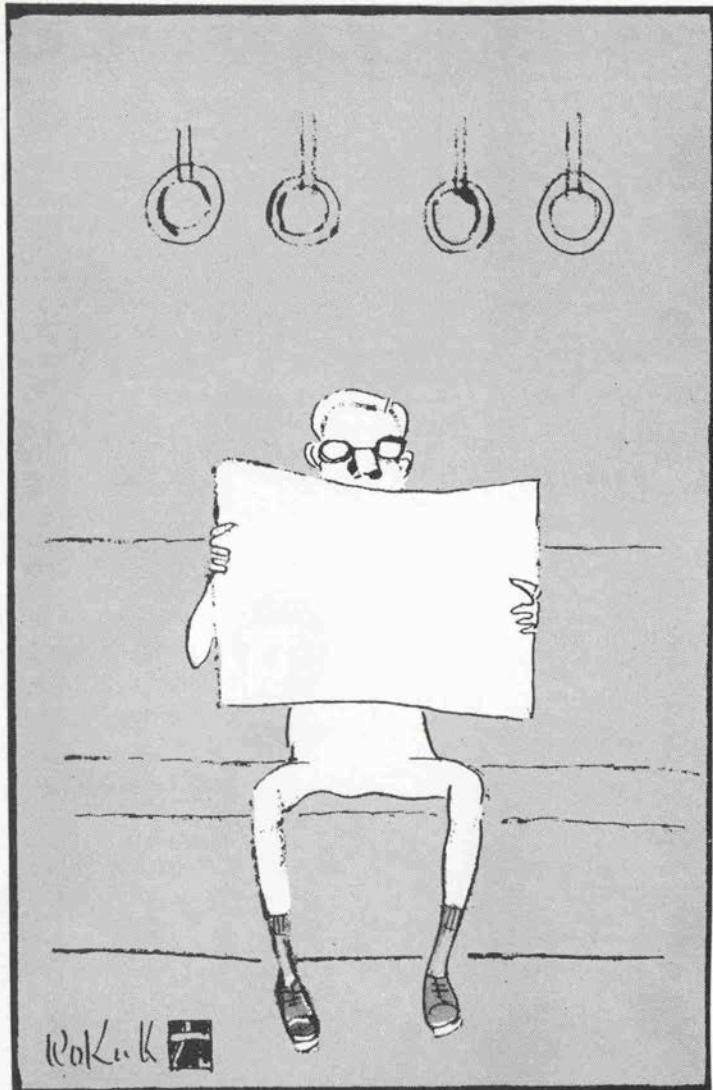
元町駅南2分(栄町2丁目)

☎392-0022

海の柩

菊池 佐紀

え・貝原 六一



Wokuk

素っ裸に引きむかれているくせに男は気が付かないでいる。平気で、眉も動さないで、たいがい新聞かなにか読み耽っているものだ。身ぐるみ剥ぎ取るのも悪いから

靴下と靴だけはまあ、履かせておく。ギッコンと電車が停り、佐知子に裸にされた男たちが、開いた扉から裸の肩をぶつけ合いながら降りて行く。靴下と、びかびか

に磨き上げた靴だけ履いた男たちが威張った顔をして、改札口に向って尻を振つて行く。

目の前の座席に座つてゐる男たちにそんないたずらをしてみたい欲望は佐知子にはもう起つてこなかつた。新聞から顔を上げた縞の背広の男の目とひよい、とかち合つて、佐知子はあわてて目を伏せた。今の病み上りの自分を男に凝視められたくなかつた。

女たちが盛んにおしゃべりをし合つてゐる。男のようないじバーンの股を半開きにした若い女と、褐色のブーツを深ぶかと履いた女が他愛ない話に打ち興じてゐる。着物の衿をきちんと搔き合せた奥さま風の中年の女が二人、上品に合槌を打ち合つてゐた。時どき気取つた笑い声が洩れる。この人たちには子宮があるから、と佐知子は思った。ああして楽しそうに喋り合つてゐられるんだわ。女は頭で考へることなどしないで、年中しきゅうで考へているから平氣でつばを飛ばしていられるのだ。しきゅうのないあたしが要との性生活で困らないようにと、お情けで残してくれた蜥蜴の尻尾ほどの子宮で何を考えつくと言つたのだろうか。しきゅうの代りに太腿でも考へろ、とあの猪首の医者は言つたのだろうか。しきゅうが堅牢にでき上つた女ほど自信ありげな表情でいられるに違ひない。あたしの腹の中が空っぽだと知つたら、目の前の男たちはあからさまな失望のまなざしを投げてくるだろ。女たちは一齊に憐憫の尖つた視線を腹に突き立てて寄越すだらうと佐知子は思つた。別にたいした変りはないよ、と慰めてくれる男が居たら、その男などに、臓もつを抜き取られた女の哀しみが判るわけはないのだった。さつきの冬太郎に似た裸木が目の裏に浮かんでくる。樹木はベニスがないからあんなに神ごうしく裸で大地に突つ立つて居られるのだ。子宮の欠けた女はどうしてこんなに見すぼらしく思えるのだろう。

目立つて美しい顔立ちをした若い女が車内にいた。長い漆黒の髪が肩先でうねつて乳の上まで降りかかる。ショートカットにした栗色の髪が多い中で、海の藻

を思わせる素直な髪はひときわ目立つた。女もそれを充分わきまえているのだろう。額に振りかかつた髪を左の指で絶えず誇らしげに搔き上げてゐる。指がしなやかにくねつて、なまめかしい色気が足下までこぼれ落ちている。佐知子の目の前が突然、かき曇つて、ネガの中の写真のように色を失つた。

「それ、つら当てなのか、俺への」

冬太郎がねつちりと言つた。聞かないでも判つてゐるはずなのにこの男はどうして無駄な確め方をするのかしら、と佐知子は喉の奥で呟くが声には出さない。肩まであつた長い髪を今朝切つてしまつていて。佐知子をモデルに使って鷹のようにつきつめた目をして取り組んでいた三十号のタブロオももう完成できなくなる。油絵は素描を終えたばかりだつた。冬太郎は長い髪の女を好んで絵に描いた。髪を切つたことで冬太郎の今までのはりつめた時間がすべて徒労に終るのだ。そう思うと佐知子はうつむいて引き結んでいた唇が少しゆるんできて、急に、笑いたくなつた。

「笑つていいのか、佐知子、おまえ、え？」

夜が明けて突然、自分でも日ごろ得意に思つてゐるはずの長い髪を切つてしまつたくなつたのだった。顔を知られていない美容院まで行つて剪つてしまつた。うんと短いのがいいと思つた。店の壁にはり付けてあるヘアスタイルの写真の中から、目立つてショートな外国のブルネットの女を指さして佐知子は店主に言つた。

「こんなにして下さい」

ぐつと唾を呑みこんで、思いきつてそう言つた。

「お嬢さま、惜しいですねえ、綺麗なお髪」

赤いマニキュアの中年の店主が満更お世辞でもなさうにそう言うと、佐知子の髪にブラシを当てて一気にときつけながら、

「ほんとに切つちやつていいんですか？」

「いいんです」

そうですねえ、と世慣れた女主人は、客の気が変りそうもないのを知ると、今度は機嫌を損ねないように合権を打ち始めた。

「長いおぐしはお手入れが大変ですものねえ。まだ学生さんでしよう？ショウトカットが近ごろは流行ってきましたね、お顔うつりがいいと思いますよ」

冬太郎は黙りこくつて、佐知子の顎を大きな掌で驚撃みにすると、おまえの顔はな、と言つた。いいか、おまえの顔はな。長い髪だからとは見られる顔だったんだ。きつねみたいな尖った顔になつて、と憎々しげに言つた。そのまま指の一本一本に力を籠めてくるので、佐知子の顔はいやでも上向きになる。冬太郎の瞋り猛つた目とぶつからないように佐知子は目を宙へ釣り上げた。

「そんなイヤな目付で俺を見るな、モデルになるのがいやならそう言えばいいのに、いやがらせの積りか、それ」のぶとおまえはな、と冬太郎は続けた。よく似ているんだ、いやがらせをするところがな。それもしつこいのだ。親娘だからな、そつくりだ。それに、と冬太郎はなにか言いかけておいて、それが余程深く佐知子を傷つけるたちのものだと氣付いたのだろう、流石にあとは言葉に出さなかつた。

ゆうべ、このひとはあたしを抱こうとして、のぶと言つた。終つたあとでまた、のぶと言つたわ。佐知子は冬太郎の体の重みを思い出していた。母親ののぶも六年のあいだ、一種も切つたことのない自慢の長い髪をしていた。のぶの髪にも冬太郎の体から滲み出た脂と手垢がしみついてべつとりと汚れていた。親娘が同じ男の汚辱の榮光にまみれて光つた長い髪を剪つてしまつくなつたのだ。冬太郎と六年の間、夫婦として暮したのぶが憎いと思つた。のぶが生きていたら真正面からあの富士額のくつきりした白い顔に赤いみみず腫れを這わせてやつたかもしれないのだつた。

首筋に冬太郎の絵具の沁みついた指の先が食い込んで

きて絞め上げられた。息ができないので片っ方の手で冬太郎の腕を掴んで思いきり爪を立てた。背骨が弓なりに反つて軋つた。佐知子のカットしたばかりの頭の地肌へ指を突つこむと、冬太郎はアトリエの紅い絨緞の上に押しつけた。毛足の長い絨緞の肌はモデルの汚れた足の裏の匂いがした。くそつ。剪つた髪はどこへやつたんだ、え。冬太郎は喚いた。怒ると見境いの無くなる男だったこの短い髪ににかわではりつけたつて、カンバスの前に立たせてやるぞ。制作中の絵を中断しなければならない口惜しさから、けもののように吠え立てた。

未完成の人物像がナイフでズタズタに刻まれてゆく。自分の素描の顔にぽっかりと穴があき亀裂が走ると、佐知子の心中を慘忍な歓びが突つ走つた。食うか食われるかの男と女の闘いがこれから始まつてゆく予感が重苦しくのしかかつてくる。佐知子は、自分がどうしようもなく冬太郎を愛しているのを悟つた。

体が急にがくん、と揺れ、上体が傾いたと思うと電車がストップした。長い美しい髪をした若い女が立ち上がり、佐知子の前を大股で扉の方へ歩いて行く。女が陽の中へ出ると忽ち光を吸收した海の藻が金色に揺らめいて肩先で燃え上る。女が遠ざかると、風を孕んだ長い髪も佐知子の視野からすうと消え去つていった。

アトリエの中央に素裸のモデルを立たせて冬太郎は絵にする女の体を倣踏みしていることがあつた。冬太郎の注文通りにモデルは腰に手を当てがつたり両腕を宙にくねらせたりしながら白いライトの下に姿態を晒した。顔が美しくあどけないくせに裸にしてみると駆肌で黯ずんでいたり、乳房が少しでも垂れていたりすると、冬太郎は露骨に顔をしかめて見せて、モデルをすぐ壇上から追立てた。不服そうに頬をふくらませた女がハイヒールの踵の音をやけに立てて石畳を歩いて行き、門の植込みの脇の南天の実に唾など吐いて立ち去る姿を、母親の

ぶが小学生の佐知子を連れ子して冬太郎の許へ嫁いで来た時から佐知子はもう見飽きるほど見ている。金ばなれの良い冬太郎が他の画家たちよりも並はずれて高いギヤラを支払うので、志願してくるモデルは多かつたが、素裸を男の前に露面もなく晒す女たちの中に冬太郎が期待するほどの清潔な体の線を持った相手など滅多に見付かりそうもなかつた。執拗こくモデル選びを繰り返した末に、やつとのことで制作意欲をかき立ててくれそうな女

にぶつかつた時などは気難かしい冬太郎の相好が崩れるのと一緒に、のぶのいつもしかめた眉根が開くのが判つた。

仕事が思うようにはかどらず、画筆が思うさま揮えないと一時など冬太郎は焦れて、のぶに八つ当りした。

のぶの髪の毛の根元を引っ掻んだ冬太郎が八疊の間を曳きずり廻している時があつた。どうされても無抵抗なのぶは声も立てなかつた。修羅場が初まると小学生の佐

知子はそっと隣室へ逃げて、元は女中部屋だつたらしい湿つた匂いが鼻につく古い小簞笥の横で、海の底にいる貝のようにひつそり、息をひそませていた。そのうち冬

太郎の罵声が止んで、耳の底が、しん、となつてくる。息をとめて神経を隣室に集中していると、男の裸の肉と

のぶの裸身がぶつかり軋り合う熱気が洩越しに佐知子の肌に伝わつてくる。黒い小簞笥のちぎりかけた取り手の金具もぎしぎし音を立てる。そつと襖から離れて足音を忍ばせて庭石伝いに裏庭の植込みの蔭へ逃げた。山茶花やくちなしの小じんまりした庭樹の蔭で、ちまちまと咲いた白い花弁を精いっぱい怒りをこめてむしり取つていった。手荒く邪慳にむしり取るほど心は風いだ。ちぎつた白い花の堆積でスカートの前が充たされると、佐知子はやつと落着いた。ある一定の間を置いたあと居間へ帰つてみると、その時はもう冬太郎の姿はアトリエに消えていて、来客でもあるらしい男たちの哄笑が聞こえたりしている。根縮めの解けた長い髪を元通りなまめいた櫛巻きに結い上げて、つけの櫛もきちんとさして、身縫いを済ませたのぶが何くわぬ顔のまま台所で茶を入れる仕度などしているのだった。

のぶの長い髪の毛は、冬太郎にいたぶられるために伸しているとしか佐知子には思えない。のぶは髪を剪るという抵抗もしなかつた。艶やかに光る髪は男の暴力を求めてなまめかしく喘いでいる。一緒に湯に浸つた時にいやでも目に入るのぶの脇の翳りや黒ぐろした陰毛とそれは性的に繋つていた。佐知子はのぶの涼しげな顔付を憎



んだ。

ごく気紛れではあったが、酒氣を帶びて夜遅く帰つて来た時など、冬太郎はのぶの連れ子の佐知子をちやほやつた。のぶは見て見ない振りをしていたが寝床を別にして揺さぶつたりする。酒の匂う口を佐知子の頬にくつけて、産毛の見える薄い皮膚を音を立てて吸つたりした。のぶは見て見ない振りをしていたが冬太郎が寝室へ抱え上げて背後から大きな手を廻してきたり。のぶは見て見ない振りをしていたが冬太郎が寝室へ引き揚げてしまうと、母親の顔付が妙に醜くなっているのが佐知子には判つた。ぎすぎすした目で他人の子を見るように佐知子を見た。のぶは何も言わないが、母親が今、しんねりと何を思つているのか佐知子は敏感に伝わつてくる。義父となるべく避けるよううに佐知子は子供ながら智慧を働かせた。そうするとのぶの表情が和らいで、突っけんどんな扱いをされるとから免れるのである。

真夏のむし暑いころなど、モデルが素裸のまま廊下へ出て来て、たばこをすばすば吸つてくつろいでいることがあつた。高校生になつていた佐知子と廁の入口で顔を合せても平然としていた。たつた今、小用を済ませて出て来たばかりの女の肉体から佐知子は目をそむけたが、女はひるまなかつた。くわえ煙草のまま、手打ちかけの骨をすっぽり覆つた髪をゆらゆらさせて、アトリエへ消えて行つた。庭木の繁つた葉叢の蒼い翳りに包まれて白い裸身が妙に青褪めて見える。上体の割に細い小さな足をした女だつた。モデルはそのうち、大っぴらに冬太郎の寝所に泊り込むようになつたが、のぶは何も言わなかつた。のぶが娘の寝息を窺いながら寝床を脱け出して行くこともなくなつた。ただ、のぶは、冬太郎と佐知子の間に立ちはだかるのだけは忘れていない。佐知子はいつものぶの鋭い目を意識していたし、のぶを差し置いて冬太郎に近づくのは話一つ交すにも憚りがあつた。

のぶが大出血して病院へ運ばれて行つたのは季節はずれの砂混りの荒い風が吹く三月だったが、のぶの悲鳴で

佐知子がかけ寄つてみると、畳に一カ所、ボタツと赤い肉塊らしいものが落ちていて、血が点てんと廊下を伝つて続いていた。廁と廊下の仕切りのドアにもたれかかつた恰好でのぶは蹲り、もう半ば氣を失いかけていた。綺麗好きも度を過ぎた癪性ののぶが毎日時間をかけて乾いた布で丹念に磨き上げた廊下の木肌は、材質が選び抜いた贅沢なものだつただけに、いつも底にぬめつた光沢をひそめて白く乾いていた。それだけに、血痕が異様に目立つた。のぶを入院させて、容態が落着いたのを見計つて帰つて来た佐知子が、湯を含ませた布切れで血の痕を拭き取ろうとしても、時間が経つたあと凝固した黯い血痕は執拗に取れなかつた。こすつても消えない血のあとはのぶの依古地な暗い性格をそのまま示していると佐知子は思つた。

庭の隅に寒椿の花弁が落ちて、うず高い堆積ができる。薄ら陽の当つた夕暮の庭に目をやつてそれに気付くと、のぶの体から流れ出た血のかたまりを連想して佐知子は一瞬、ひるんだ。落ちた椿の花弁があんなに嵩ぱるまで放つておくことなど、働き者ののぶにはついぞなかつたことだつたのに、そう言えばこのごろ、体を動かすのを妙に億劫がつていたのぶの、からんころんとやけに引きずつた重い下駄の音に思い当つた。入院後の経過が思わしくゆかず、のぶは、あつけなく、死んでしまつた。

髪の長い女と入れ更りに、妊つた若い女が車内に乗り込んできた。小さな男の子の手を曳いている。生み月が近いのだろうか、女の腹はもうかなりせり出していて、座席に坐るなり、口を少しあけた懶るい表情になつた。頬の赤いその男の子はクッションに上のなり躍んだりはねたりし始めた。お靴はいて上つちやだめ。男の子の両足から短靴をもぎ取ると、ママはだるいんだから、じつとしてなさい。母親が薄くなつた眉根を寄せて叱つてい

'82 サングラス



Christian Dior

Yves SAINT LAURENT

NINA RICCI

LANCEL

Elegance

BALENCIAGA

Polo

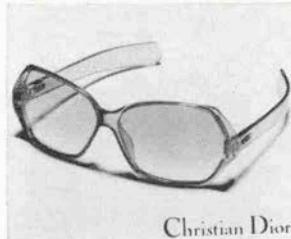
LANVIN

Ray-Ban

PLAYBOY

emanuel ungaro

courreges



Christian Dior

各ブランドに'82年の幕開けを告げる期待のニューモデルが登場。ダンヒル、ディオール、ランセル、それぞれのニュースターを豊富に取り揃えています。

神戸眼鏡院

元町店・元町3丁目 ☎(321)1212代表
三宮店・さんちかタウン ☎(391)1874~5

耳のよきパートナー

補聴器オーディオルーム

専門コンサルタント担当

- 防音室で聴力測定・補聴器微調整
- 耳穴にフィットする耳栓型取り

※補聴器は元町店で取り扱っています。

ハイセンスな紳士服で
最高のおしゃれを



三恵洋服店

神戸・元町4丁目 ☎(078)341-7290

ガーチャーマン

南禅満作
え・小西保文

翌晩も多加はやつて來た。

多加は扉を開けて帳場の入口に立ちどまると、にやつと笑つてから、釣鐘が口をきくのを待つ。機嫌を確めて、よければはいる。悪ければもつと待つ。

「何じやいな。又邪魔しに來たのかいな」

來るのが足繁くなると、釣鐘も言うようになつていた。

多加は長椅子に腰かけると、横目で睨みつけて、

「こちら、向きな」と、先ずやり返す。「社長はんは仕事したらええ。うちは黙つとる」

十一時近くまで話しこむのが通常になつた。

日が重なると、長尻になる。十二時を過ぎることもあつた。

「一時だぞ」

と注意すると、掛時計を見上げ、さよならも言わずに、

木のサンダルの足音をばたばた残して帰る。

多加がくれば、相手をしなければならない。そろばんに身がいらないし、帳付けははかどらない。あるとき業を煮やして、



「わしの身にもなってくれ」

といったことがある。追い出しなと多加はその時言った。

それですむのだった。その時は釣鐘は勢いの赴くまま、椅子を立上っていた。返事次第ではつまみ出す氣勢を見せた。甘く見られないためにも、一度はそういう処を見せて置きたかったのだ。

「これを今夜すまさにや、わしは寝れんのやで」

「追出しな」と、もう一度言つた。

「製品納付の最終日なんや。知つてるやろな相良さん。これこれ納めましたと計算しとかにや、政府から系貰えんのやで」

多加は陰気臭く釣鐘を見つめ、子供が駄駄をこねるよう長椅子で尻を振つた。

「追出しな」

泣声になつてゐた。釣鐘は、毎晩こんなことを繰返している二人のことを、屋根つきの部屋に寝てゐる甥や町会議員はどう見ているだらうかと気になつた。多加がくれば、何の変哲もない古工場が一変する。多加のいるといないで、帳場の明るさが違う。来るなどいとも、口先のことではあるのは彼自身が一番よくわきまえている。そのことに気付くと折角小言を述べながら、中途で笑い出していた。多加も笑つた。照れて笑ひ方だつた。二人とも笑い出していた。すると多加は一層それが照あつたのだろうか。いきなり座つたまま、べたんと横に寝て、片頬を長椅子のシートにくつつけた。

「追出しな」を寝たまま繰返した。

釣鐘は血の騒ぐのを身体で知つた。多加は寝て顔を火照らせながら彼を見つめている。子供っぽい仕草だが、男を受入れる姿勢に似ている。襲つたとしても、多加は抵抗しないだろう。多加は目をつむつてゐる。

「相良さん」と彼は、彼女の身体の上から呼びかけていた。多加はうす目を開けた。
「さわりな」
釣鐘は血の騒ぐのを身体で知つた。多加は寝て顔を火照らせながら彼を見つめている。子供っぽい仕草だが、男を受入れる姿勢に似ている。襲つたとしても、多加は抵抗しないだろう。多加は目をつむつてゐる。

拒否の言葉にしては激しいものではない。
「手はかけん」

釣鐘はいった。言つて置かねばならぬと思ったのだった。多加にではない。自分である。

「知つてゐるやろな。あんたは後家はんやで。後家が夜な夜な男の帳場へくるのはどういうことなんや」

「いやらしい」
「欲求不満か」と多加をのぞきこんだ。

すると多加はくと身もだえしてから、いきなり彼が背を向けるのを待つて、

「そや、欲求不満や」といい返した。

「言つたな」
くくと又笑つた。釣鐘は引返して多加の肩に手をかけた。その手を払いのけて多加が言つた。

「さわりな」
釣鐘は机に戻つて憮然とした。こんなことをしてどうなるのだろうか。多加は使用人である。手を出せば傷付くのは雇傭主である。こんな割のわるい火遊びはない。

これを仮りに恋愛ごつこと考えてみる。妻があるのを多加は知つてゐるはずである。妻に知れたらどういうことになるか。多加は分つてゐるのだろうか。

ようやく書きものを終えて振返ると、多加は椅子で震えていた。

多加はくすんと鼻を鳴らした。
「わしの作業衣があるから、着とらんかい」
多加はされるがままに胸をすぼめて釣鐘の上着の中でも震えている。

「寒いのか」
ときいた。多加は身を縮めている。

「寝たから、風邪ひいたのとちがうか」
多加はストーブの蓋をあけ、鉄の火搔棒で火種子をかき廻した。ぱちぱちと煙突に上る炎の音がした。薪がストーブの中で音立てて転がつた。

「用心せにや」

多加はくすんと鼻を鳴らした。
「わしの身にもなってくれ」

と彼は、彼女の身体の上から呼びかけていた。多加はうす目を開けた。

「さわりな」

「相良さんは亡くなつた、だんなのことを思い出すことがあるのんか」

と釣鐘は話しかけていた。しんみりした話が二人の間で出ることもあつたのだった。そんな時は、二人がはしゃぎ過ぎた後でのことである。多加はにこりともしないで頷いていた。

「わしに話してみる気あれへんか」

「うちと一緒に外を歩いたことがあつたん」と多加は素直に話した。それからにやっと不逞な独り笑いをした。

「いい気なもんや。思い出し笑いと違うか」

「そのときうちが相棒怒らせてしもうたん」と彼女はためらわずに続けた。「もうお前と一緒に歩いたらん言うん。うちが下駄はいて、相棒はうちの乳のところまでしかなかつたん」

「相良さんの彼氏は背が低かつたんか」

「もうお前と一緒に歩いたらんと言うたのが、ほんまになつてしまつたん。そやかて、うちら三月も一緒に暮らしてないから、夫婦の情愛なんか、知らなかつたみたい」「夫婦のすることしてもか」

「そんなんじやないんよ。女が男に、男が女に情が移るつてのは」

「それが残念か」

「三月経つてから、戦争に取られて行つてしまつたん」

それからの多加は、釣鐘が帰れというたび、べたんと長椅子に上半身を横たえるようになつた。寝れば、抱え出さぬ限り追出せない。多加はそれを知つてゐるのだろうか。釣鐘の方でも、ほり出す氣はない。多加がくると帳場が華やぐ。妻と離れて、長くなるからか。多加の来ない夜は待切れず、道を通る足音に聞き耳を立てていた。多加はそんな釣鐘を、見抜いているようでもあつた。夜中を過ぎて二人切りでいても恥らう気配を見せなくなつた。

多加の身の上話を余り聞かされ過ぎたせいか、一日一

日と、親身なものを覚えるようになった。亡くなつた多加の父が色盲であったことや、遺伝の法則で女の多加はそれが出ないが、彼女の生む子供が若し男なら、四人に一人が色盲の可能性のあることも知つた。

女体の血の奥深いところに巣くつたそういう秘密は、本来なら男に他言できないものである。秘密を知らされたことで、秘密に加担したような奇妙な想念になる。男と女が秘密を分ちあうことは、秘密の相姦ではないかと気がついた。

その日、糸を入れて外から帰つてくると帳場に男がいて、作業帽を顔にかぶせ、椅子から足をのばし、靴を机の上に投出して寝そべつていて。他人の事務所に勝手にはいり、そんな恰好で振舞うるのは、この田舎町にはいられないはずである。

釣鐘は顔を反向けて帳場を出かけたが、ふと気になって寝相を確認した。土間に空のトランクが投出してある。開屋だつた。三宮で生地屋をしていた頃、店に出入りしていた一人だと分つた。名前まで思い出した。危険な相手である。開屋が捕まるといわれていた時代である。千円はさした金でないかも知れぬ。しかし巻添えをくうのは馬鹿らしいことだつた。

ヤミなら、釣鐘は最近もっと大きなことを考へてゐる。車を買った。四輪車でない。前が一輪だから三輪である。二股のハンドルで、サドルの下にガソリンタンクが、ペタルにエンジンが付いていた。運転台は屋根だけで、サイドはない。上からの雨は防げたが、横からの風は避けられない。ハンドルから前輪の心棒へかけて、セルロイドの風除けが取付けてある。荷台は小型トラックのみだつた。その大きな荷台が気に入つたのだった。

電車を運転した経験がある。電車乗りならと、警察の試験官は一も二もなく免許証をくれた。ガソリンの不自



由な時である。

ヤミガソリンが街に出廻っていた。織維工場では業務用の特配がある。ヤミでなくとも油は手に入った。

共産党の町会議員に部屋を貸してから、ヤミブローカーが工場へ顔を見せなくなっていた。隠匿物資が倉庫から摘発をうけていた。摘発は警察の仕事だが、共産党も手をかしている。西脇には二百五十からの織物工場があり、五千三百人の従業員が働いていた。ヤミで得た工場の利益は、労働者の賃銀に還元されないので、共産党はヤミを不正行為と見なしている。釣鐘は自分で、大阪の問屋街へ持っていくことを考えていたのだ。車と油は確保できている。後は運搬だ。車一台分のヤミである。途中に警察の検問があった。それを突破しなければならない。アメリカ軍のジープが道を監視している。それをおかなければならぬ。下手をすると、車ごと没収の憂き目を見る。

釣鐘はその足で作業場へ出ていった。女従業員が五人いた。その中に多加がいた。織機は一人が一台きりでないから、五人ではもつと何台にもなる。経巻(たてまき)

から繰出される糸の流れが、綜続(そうこう)で上下二列の菱型にひらき、狭間を戻(おさ)が目もとまらぬ速さで往来している。仕上り真近かに織上った布巻が何台かあつた。蒸気の白い微粒子が女たちの足もとを這つている。釣鐘も蒸気に足を入れていた。ふと、手をつかまれたと思ったら、薄っぺらいものが握らされていた。チユウインガムだった。誰も気付かぬうちの事である。知っているのは一人だ。多加だ。多加の背後を巡回していた時だったから。その折分つたが、織子はみな口を動かしていた。五人ともである。飴はこの町でも出来わつていたが、チユウインガムはアメリカ兵しか持っていない。釣鐘も口へ入れたが、どこからこんなものを手に入れたかが気になった。

織場から加工場へまわった。甥の光男が、織布から薬品で汚れをとっている。

「帳場へ来とつてのは、どこのおっさんや」

知っていたが、わざとたずねることで、こだわっていふことを伝えてから、光男が煙草を吸っているのに気がついた。甥はいったんボケットへ隠したが、しぶしぶ取

出した。

「見せますがな。見せますがな」

釣鐘は受取つて手に持つた。

「こんなものじやれへんがな」

「外国煙草ですか。倉庫を見せてくれでしたんでつせ」

釣鐘は煙草を返した。

「見せたのか。あんな担ぎ屋に」

「叔父さんの友達やと言うてはりましたぜ」

「どあほ。煙草一個でか」

帳場へ引返した。担ぎ屋はまだ足を机にのせていた。

甥を呼んで、担ぎ屋を起こさせた。

「起きます。起きます」

と、光男が肩を揺さぶるたびに言つた。よく見ると、

担ぎ屋は膝を両手で押さえ、身体をのけぞつてゐる。

「足をどうしたの、松林さん」

「こむら返りです。直ぐ治ります」

甥が手伝つて、靴をつかんで机からはがそうとした。

足は棒のようによらなかつた。

「投出さんと、そつと地べたへ置いてくんはれ」

どしんと、床で音がした。担ぎ屋は悲鳴を上げた。

痛みが遠くと、昔のへらず口の松林にもどつてゐた。

椅子をいざつて、腹を机に押しつけると、白い前歯をかみ合せながら、照臭そうに笑つた。

「こんなこと、しょっちよう起るの松林さん」

「腹のひもじいのを我慢していると、ちよこちよこ、ぶり返します。道で動けなくなつたりするんです。経験おまへんか」

松林は外国煙草を取出して机に置いた。

「釣鐘さんの社長はんも板についたものですね。三宮の高架下時代となら、大変な出世だと思います。これはお土産です。神戸の奥さんが肌恋しゅうおまへんか。ひひひ」

釣鐘は神戸から警察に追われて、裸足で逃出す時、この男から靴を借りたことを思いだした。あの時は気が立つ

つていたので、どんな人間にも泣きつけたのだった。

「なんぞ、ええ話が神戸におまへんか」ときいてみた。

ひひ、と松林は追従笑いをした。「ええ話なら、そちらのこととちがいますか」

「変つたことでも」

「変つた話なら、沢山おます。奥さんから言伝てを頼まれ

てきました。釣鐘さんと一緒に暮らしたがつてはります」

「あの靴は大きいて履けまへんでした」

と釣鐘は靴の礼を言つた。松林は、ひとと、前歯を笑つた。

「奥さんはあんじよう神戸でやつてはりまつせ」

「家内のこととはよろしいがな」

「ほかに変つた話といえば、進駐軍ですな。相変わらず横柄

で、厚かましゅうおます」

釣鐘も進駐軍には酷い目にあつてゐる。アメリカの洋服生地を扱つて、三日間、M.P.で抑留をくらつたのだつた。

「ほかには、衣料切符が無くなる話があります。そなうな

つたら、吾々の商売は上つたりですな。釣鐘さん。ただでさへ肩身のせまい生き方でしたからね。ヤミは、長続

きしづこないとは思つていましたけれど」

綿花が一度に八本づつ、クレーンでアメリカ船から岸壁へ揚陸されている写真が、連日のよう新聞をにぎわ

していた。衣料は間もなく豊富に出廻ることは、織物の町である土地の人人が一番早く感付いていた。

「それは確かですか」
と釣鐘は思わず身体をのり出していた。こここの町だけではなく、余所の町まで噂が伝わつてゐることで焦慮を感じたのだった。西脇は、明治から大正、昭和の初期にかけて何度も織物ブームと不景気を味つてゐる。不景気の折は工場を縮少し、織機の台数を減らして凌いで来たのだった。もうその時代が来つたある。春氣に構えておられない。折角工場を買って、儲ける機会を逸してしまつた気がついた。

(つづく)

